

第58話：「ペンギン」をざっくり紹介 台本

【テンプレ (OP)】

しろ：生物をざっくり紹介するラジオ、略してぶつざく、パーソナリティーのしろです。

とよ：同じくパーソナリティーのとよです。

しろ：この番組は生物にまつわることをざっくり紹介する番組です。

とよ：本日もどうぞお付き合い下さい。

～ 雑談 ～

では、本日もお便りの紹介です。

埼玉県にお住いのペンギンさんからのお便りです。

楽しい番組をありがとうございます。学生時代の思い出は50代になっても輝きを失いません。気心の知れた仲間との共同作業のワクワク感に共感し、また羨ましく思いながら聴いています。

私は文系出身ですが、お話レベルなら進化や遺伝子などにも興味があります。ぶつざくはまさに打ってつけです。皆さんの優しい語りが素敵ですね。人柄が表れているようなとよ先生の「おさるさん」という呼び方、気に入りました。お忙しい中のタイムリーなネコの会もよかったですよ。これからも楽しみにしています。

ということです。ありがとうございます。ざく籍番号はBZ2202-30です。

～ 雑談 ～

とよ：今日は何を紹介するんですか。

しろ：今日からお便りをくださったペンギンさんの好きな生物、「ペンギン」を紹介します。

基本情報

動物界・脊索動物門・脊椎動物亜門・鳥綱・ペンギン目に属する種の総称。結構広いな。とは言ってもペンギン目にはペンギン科しかないけど。ペンギンには6属18種がいる。属から分かれているって面白いよね。例えばフンボルトペンギンはフンボルトペンギン属で、コウテイペンギンはオウサマペンギン属。あんなに似てるのにね。ナス科の中にあるナス属のナスとトウガラシ属のトウガラシぐらい違うってことだね。ちなみに雑学をいうとピーマンとパプリカは種までトウガラシと同じで、トウガラシの栽培品種、亜種みたいなもん。ナス科の中のナス属の中にナス、ジャガイモ、トマトなどの種で分かれているから、分類学的にはフンボルトペンギンとコウテイペンギンはナスとトマトよりも遠いってことになる。生物って面白いね。ペンギン科の学名は *Spheniscidae* (スペニスキダエ)。Sphen がギリシャ語の「くさび」の意味で、ペンギンの泳いでいるときの姿に由来している。和名のペンギンは、ラテン語の太っているという意味の「ピングウイス」から、スペイン語の太っちょを表す「ペンウィーゴ」が生まれ、それがなまったもの。現在は絶滅してしまった北半球のオオウミガラスという鳥に対して表現されたも言葉。オオウミガラスはチドリ目なので今のペンギンとは違う系統だけど、ペンギンにすごく似ていて、ペンギンと同じように海鳥で空は飛べない。北半球にいたこのオオウミガラスをペンギンと呼んでいたんだけど、大航海時代にヨーロッパ人が南極で現在のペンギンを発見して、オオウミガラスと勘違いしてペンギンだ！ってなって南半球のペンギンがペンギンと呼ばれるようになった。このオオウミガラス、卵は食用、羽毛は防寒の保温材、肉も食用にするために乱獲され、その結果珍しいわけでもなかった種なんだけど、悲しいことに絶滅の危機に陥ってしまった。そこで各地の博物館などで標本が必要になって、コレクターにも高値で売れるようになったので、それですます乱獲されるようになってしまっ、結局は絶滅してしまった。これが1844年6月4日。オオウミガラスは人間の商業的な捕獲によって絶滅した最初の鳥。その反省を込めてアメリカの鳥学会の会誌にはオオウミガラスを意味する Auk という名称がつけられているらしい。悲しいお話なので、リンクに貼ってあるペンギンの達人ってサイトからペンギンの名前の由来ってページに飛んで読んでみてほしい。

ペンギンの生態に話をしていこうと思うんだけど、野生のペンギンは南半球に主に生息している。南極ってイ

メージがあると思うんだけど、南極大陸にいるのはコウテイペンギンのみ。亜南極まで広げるといろんなペンギンが生息している。この名前の付け方の過程が面白くて、コウテイペンギンとオウサマペンギンっているじゃん？名前似てるよね。最初に南極、これは亜南極って意味だね。この南極でオウサマペンギンってのが見つかったんだよね。他のペンギンよりも大きいからオウサマ=キングって名前つけられたんだけど、コウテイペンギンって南極大陸にいるから発見が遅れた訳で、オウサマペンギンよりでかい、名前どうする？ってなって、エンペラー=コウテイって名前になった。オウサマペンギン残念。また脱線した。もっとも多くのペンギンの種が生息しているのがニュージーランド。寒い地域でしか生きられないと思われがちかもしれないけど、ガラパゴスペンギンってのもいる。ガラパゴス諸島って赤道直下にあるので、めっちゃ熱いところに生息しているペンギンもいるんだね。でないと確かに日本でこんなに飼育できないよね。このガラパゴス諸島が北半球にちょっとだけはみ出しているの、回遊時に北半球に来ることもあるかもしれないけど、この一部の個体を除けば全部南半球だからざっくり南半球の海鳥ってことで良いよね。ちなみにペンギンは南極大陸から発生する寒流の流れる地域にしか生息してなくて、この寒流に適応して進化してきたので、この寒流が北半球まで流れない限り野生のペンギンが北半球に来ることはない。ちなみにガラパゴス諸島までくる海流はフンボルト海流と言って、日本で水族館などで一番飼育されているペンギンがこのフンボルトペンギンってことを考えると、確かに日本が一番適応してそうだよ。寒いところにいるイメージ関連の話では、ジェンツーペンギンっていう南極に生息しているペンギンなんだけど、学名が *Pygoscelis papua* (ピゴスセリス パプア)。赤道直下のパプアニューギニアとは程遠い亜南極に生息しているのにパプアって学名にされてしまった。剥製につける札を間違っつけてしまったことからこの学名がついてしまった。

ペンギンって日本で超人気だけど、これはもうあの愛くるしい姿だよ。よちよち歩くし、歩くよりも泳いだりおなかで滑る(ドボガンという)方が速いってのもあるし。で、あの姿の謎なんだけど、あれは完全に水力学的に理想的な形をしていて、水中にいることに適した形なんだね。鳥は全部二足歩行だけど、人間と同じく直立二足歩行をしているのはペンギンだけ。歩くの下手だな、大変そうだなって人間はいつでも上から目線でペンギンを見てしまうけれど、ネアンデルタール人で話した最初の人類であるサヘラントロプス・チャデンシスが出てきたのが700万年前。ペンギンの祖先が出てきたのは大体1億5000万年前で、現ペンギンは4680万年前、このころにはすでに直立二足歩行をしていたので、直立二足歩行歴ではペンギン人類よりも大大大先輩なんです。そんなペンギンパイセンはさらにすごいストイックで、脚が短いように見えて、骨格としては常に空気椅子状態。しかも人間の足の接地面、いわゆる足の裏ってところはペンギンではふしょ骨と呼ばれ、かかとに当たる。つまり人間で言ったら常につま先立ちの空気椅子状態ってことです。ペンギンパイセンまじ尊敬っす。

さらにストイックなところがペンギン大パイセンにはあって南極にいるペンギンと違って、卵産んでもそれが孵るまではずっと温め続けなければいけない。メスは卵を産むことで体力を使うので、オスが基本卵を温める。ペンギンの餌は海の中の魚だから当たり前だけど温めている間に餌にありつけることなんてできないから卵が孵るまでは断食。南極大陸にいるコウテイペンギンとかは生息地から海まで数百キロとかあるからメスが戻ってくるのは卵が孵るころにやっと餌を食べたメスが孵ってくる。その間なんと90~120日。4か月も断食してるってやばいね。その後生まれた子どものためにまた数百キロ往復して餌をとってくるとか。。。もうほんと頭上がらないよね。ホモサピはウーバーイーツとやらで家から一步も出なくても食事にあつくとか、めっちゃ贅沢だよ。ウーバーにはうちもお世話になっているけれども。御ペンギン大パイセンのこの断食は子育ての時だけではない。パイセンの全身を覆っているのは毛に見えるけど、鳥類なので羽。この羽に脂を塗りたくってコーティングしているので、この撥水効果によって海に入っても地肌が濡れることはない。この防水能力を維持するために年に1回古い羽毛が抜けて新しい羽毛に生え変わる換羽という現象が起こる。この換羽の間は当たり前だけど防水能力がないので海に潜れない。ということはまた断食ですよ。これが大体2週間~1か月。マジ御ペンギン大パイセン様にはかなわないよね。まだまだパイセンのすごさについて語り足りないけど、ここまででもめっちゃ長くなってしまったのであとは委ねます。基本は参考に貼ってあるペンギンの達人ってサイトを見てみて。

最後に一つだけ、これだけ言わせて。卵を温めたり換羽だったり、これだけ断食があってやっと餌にありつけると思って数百キロの道のりをかけて海に行ったら魚がいなかったらどう？子どもが巣立って頑張ってよちよち歩いてやっと初めての海にたどり着いてもそこに魚がいなかったらどう？実はペンギンは現在絶滅の危機にさらされていて、またこれもホモサピがやらかしてるんだよね。地球温暖化で魚が減少したり生息域が変わってしまったり、大漁業によって捕りつくしてしまうなんてのもあるよね。この辺も考えていけないといけないよね。でも自分たち人間も食べなければいけないから結局は難しい問題だよね。いつもこんな結論だけど。

【テンプレ (ED)】

しろ：お聞きくださり、ありがとうございました。ぶつざくは皆様からの温かいお便りを募集しています。概要欄のお便りフォームからお送りください。

とよ：また、Twitter や YouTube にて、ぶつざくのお知らせをいろいろ配信しています。HP にもリンクを貼っているの、ぜひそちらも見ていただけるとすごく嬉しいです。

しろ：今回紹介した内容は「ざっくり」だけです。これ以降の深掘りに関しては、ぶつ部員の皆様に委ねます。

とよ：今もあの日の生物部がお送りしました。

しろ：ではまた次回お会いしましょう。

とよ・しろ：お疲れ様でしたー

【参考】

・それでもがんばる！どんまいなペンギン図鑑（渡辺佑基/宝島社）

・ペンギン | Wikipedia

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9A%E3%83%B3%E3%82%AE%E3%83%B3#:~:text=%E3%83%9A%E3%83%B3%E3%82%AE%E3%83%B3%E3%81%AF%E3%80%81%E9%B3%A5%E7%B6%B1%E3%83%9A%E3%83%B3%E3%82%AE%E3%83%B3,%E3%81%82%E3%82%8A%E3%80%81%E9%A3%9B%E3%81%B6%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%8C%E3%81%A7%E3%81%8D%E3%81%AA%E3%81%84%E3%80%82>)

・概説|ペンギンの達人 (<https://www.pen-t.com/gaisetu/index.htm>)